

第2回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
竹島 貞治	経済学経営学系・准教授		600,000 円
研究課題名	キャッシュフロー/リスク分離型財務報告モデルの研究		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入〕</p> <p>近年、企業を取り巻く経営環境の変化は様々な事業リスクを生んでいる。これらのリスクは情報利用者の意思決定に有用な情報になるが、これまで十分に開示されてきたとは言えない。リスクは本質的にキャッシュフローではないため、貨幣数値を専門とする伝統的会計モデルでは扱えないというのがその主な理由であるが、本研究はこの問題を克服するため、キャッシュフローとリスクを区別して開示する新しい形の財務報告モデルを構築する。本研究は、財務報告の基礎理論として事象サイクルモデル (Takeshima and Sorter [2009]) を使用する。事象サイクルモデルは、企業活動を営業事象サイクル・投資事象サイクル・財務事象サイクルの3つのタイプに分け、さらにそれぞれ未完結サイクル/完結サイクルに分類することによって、合計6つのサイクルを用いて会計情報を分析する。</p>		
研究の成果	<p>当初6つに分けられていた事象サイクルは、現金サイクル、投資サイクル、財務サイクル、稼得サイクルの4つのタイプに集約され、現金サイクル、投資サイクル、財務サイクルは常に未完結の状態、稼得サイクルは常に完結した状態にあることが分かった。また、現金サイクル、投資サイクル、財務サイクルの3つのサイクルは貸借対照表を説明する上で有用であり、他方、稼得サイクルは損益計算書を説明する上で有用と分かった。さらに、従来財務諸表理論として利用されてきたサイクル概念の多くは、上記4つのサイクルのうち、稼得サイクルに位置づけられることが分かった。</p> <p>伝統的会計モデルを分析した結果、4つのサイクルはいずれも過去・現在・未来のキャッシュフローから構成されており、財務諸表はこれらのキャッシュフローをサイクルの観点から分類して開示したものであることが分かった。また、リスクなどの予測的データはキャッシュフローと異なり貨幣数値によって表わすことが困難であるが、財務諸表とは別個の報告媒体を使用することにより、多様な方法で記述・開示する可能性が示された。</p> <p>従来のモデルが稼得サイクルのみを使用していたことを考えれば、本研究で構築した4つのサイクルを使用した場合、従来の理論を発展する新しい財務諸表理論、財務報告理論が創出される可能性がある。また、本研究で提示した分離型財務報告モデルは、特に公正価値会計の問題解決に向けてその重要性が見出されることが示唆された。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事象サイクルの属性と複式記入」日本会計研究学会第69回全国大会、2010年9月9日。 ・「事象サイクルの属性と複式記入」、『会計』、Vol.178、No.5、2010年11月、pp.84-96。 ・“The Cycle Model: An Alternative View of Elements of Financial Statements”, 34th European Accounting Association, 4.21.2011.(accepted) 		
経費の執行状況	区 分	執行額 (円)	備 考
	外国旅費	270,101	フロリダ (3/17-3/28)
	設備備品費 (図書費)	129,060	
	英文校正	169,526	
	投稿料	4,664	海外学会誌
	消耗品費	26,649	海外博士論文 (CD-ROM)、論文別刷料